

栝樓

心なくむさきへちまを出す哉たん袋井の宿のおかかは、と見ゆ、當時湯殿にて絲瓜を以て垢すりしと知る、農業全書に、其上皮をさり、其筋あらき布の如きをもみ洗ひ乾かし、是にて器物をあらへば、たとひ塗たるものにて、引めも付ず物の垢をよくとり、又湯手に用て甚よじと云と合考ふべし、南宋の僧斷崖の詩に、不成蔬菜不成瓜、沿墻傍壁也、開花只與諸人除垢穢、不知自己一團滓、とあるにて、西土にも垢除に用ふることしるべし、又本草にも釜器を滌べし、故に村人洗鍋羅瓜と云とあり、

〔物類稱呼〕生植絲瓜略 中 諺にへちまのかはのたんぶくろといふ事有、是は此へちまにはあらず、へちくわんが馬の革一駄袋といふ事也、へちくはんは茶人にて、茶器を革袋に入、馬につけて遊行せしとなり、侍の隱遁したるにて、粟田口に住めり、

〔毛吹草〕三山城 深草絲瓜

〔日次紀事〕十月深草民家賣絲瓜

〔本草和名〕八栝樓、一名地樓、一名菓羸、楊玄操音 一名天菰、一名澤姑、實名黃菰、已上本條 一名澤巨、一名苦

蕒、一名烏服、一名稗朴、已上四名 一名庭鷹、一名颯、圭姑二音 一名苦樓、出雜要訣 和名加良須、字利。

〔倭名類聚抄〕二十栝樓 兼名苑云、栝樓一名瓠、圭姑二音 和名加良須、字里。

〔康賴本草〕採藥時節栝樓 味苦寒 无毒 和加良須 字里 乃 福 二月八月採根 曝乾 三十日

〔伊呂波字類抄〕加栝樓 附植物具 瓠 瓠 カラスウリ 地樓 菓羸 楊玄操 颯 栝樓 天瓜 澤姑

實名黃瓜 澤巨 稗朴 已上二名 出釋藥性 已上七名

〔本草綱目〕十八上栝樓 中品

時珍曰、羸與鹹同、許慎云、木上曰果、地下曰鹹、此物蔓生附木、故得兼名、詩云、果羸之實、亦施于字、是矣、栝樓即果羸二字音轉也、亦作瓠、後人又轉爲瓜、愈轉愈失其真矣、古者瓜姑同音、故有澤姑